

なくそう！日米軍事同盟・米軍基地 2023 年日本平和大会 in 鹿児島 の成功をめざすよびかけ

2023 年 6 月 2 日 第 2 回実行委員会

今年 11 月 11、12 日、鹿児島市で「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地 2023 年日本平和大会」が開かれます。「大軍拡・『戦争国家』づくりストップ！軍事費を暮しに回せ」「憲法 9 条活かした平和外交で、非核平和のアジアを」「国連憲章守れ！ロシアは侵略を中止せよ！一刻も早い停戦を」を掲げて開かれるこの大会に向け、全国で草の根からの学習と運動、参加者の輪を広げ、大会を大きく成功させましょう。

岸田政権が昨年 12 月 16 日に閣議決定した「安保 3 文書」（「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」）にもとづく大軍拡・「戦争国家」づくり推進の中で、いま日本は、「戦争か平和か」の重大な岐路に立っています。

この大軍拡路線は、世界第 3 位の軍事費によって、これまで自民党政府も憲法 9 条の下で「持てない」としてきた攻撃的兵器を大量に保有し、「専守防衛」をかなぐり捨て、日本をアメリカに従って他国を先制攻撃・全面攻撃できる国にすることをめざすものです。それは、日米軍事同盟の下で、日本がアメリカの戦略に完全に組み込まれ、米軍と自衛隊が一体化し、日本全土を戦場化する危険をもたらす道です。そのために今後 5 年間で 43 兆円もの軍事費を支出し、国民に増税と生活関連予算の削減を強い、全国の基地を核攻撃被害にも備えて「強靱化」し、科学技術を動員して防衛産業を育成し、自衛官募集への自治体協力を強化するなど、まさに「戦争国家」づくりを全面的に推し進めるものです。

私たちは、平和と憲法を守るすべての人々の力を結集し、これに反対する運動を巻き起こし、日本平和大会に結集することを呼びかけます。

いま、全国各地でたたかいが広がり、変化が生まれています。元自民党総裁はじめ広範な人々から大軍拡・大増税路線への反対の声が上がり、世論調査でも、防衛費増額のための増税反対が 80%、43 兆円の防衛費増額「適切でない」58%、優先すべきは「緊張緩和に向けた外交」57%（共同通信 5 月 6 日）となっています。敵基地攻撃部隊の配備先である沖縄・南西諸島では、石垣島、与那国島はじめ、これまで自衛隊誘致の立場に立ってきた人々からも、「これでは島が戦場になる」と反対の声が広がっています。沖縄県議会は「軍事力による抑止力ではない、外交と対話による平和の構築」を求める決議を採択しました。この流れをさらに大きく広げていきましょう。

政府は、ロシアによるウクライナ侵略を口実に、大軍拡をすすめるようとしています。もちろん私たちは、この残虐なロシアの侵略に対し、世界の人々と共に「侵略を中止し即時撤退せよ、核兵器による威嚇を止めよ、国連憲章守れ、一刻も早い停戦を」の声を上げ続けます。そして、こうした戦争を起こさせないためにも、軍事対軍事、核対核の悪循環を生む軍事同盟強化ではなく、ASEAN がめざしているような、関係するすべての国々が参加する包摂的な平和の枠組みをつくり、紛争の平和的解決のために努力することこそ、求められていると考えます。日本国憲法を持つ日本は、その実現の先頭に立つべきです。また、G 7 広島サミットでさらした核兵器固執の醜態ではなく、被爆国政府自らが核兵器禁止条約に参加し、朝鮮半島はじめ、東アジアを非核平和の地域へと転換する先頭に立つべきです。

こうした憲法にもとづく平和の対案を示し世論を広げ、同時に、日本をアメリカの戦争政策に組み込む根源にある日米軍事同盟廃棄の世論も広げ、日本平和大会 in 鹿児島に持ち寄りましょう。鹿児島では、岸田大軍拡路線の下で、沖縄・南西諸島と一体に軍事基地・演習強化が激化しています。馬毛島の米軍・自衛隊基地化、奄美大島への敵基地攻撃部隊の配備と日米合同演習の激化、鹿屋基地への米軍無人偵察機の配備などに、住民が反対運動をくり広げています。この鹿児島に全国の運動を持ち寄り、学び、交流し、大軍拡・「戦争国家」づくりをストップし、憲法にもとづく平和外交へと大転換する運動を発展させましょう。今から諸団体が協力し、平和大会に向けて参加者の輪とオンライン視聴会の輪を広げる準備を開始し、大会を大きく成功させましょう。